

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について（小・中学校質問紙）

- ①「小学5年（中学2年）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」の質問に回答した選択肢別の平均正答率。

小学校	国語 正答率(%)	算数 正答率(%)	理科 正答率(%)
当てはまる	72.4	65.5	62.9
どちらかといえば、当てはまる	66.7	57.4	57.4
どちらかといえば、当てはまらない	60.2	49.8	49.1
当てはまらない	53.4	48.5	47.1
中学校	国語 正答率(%)	数学 正答率(%)	理科 平均 IRT スコア
当てはまる	61.0	61.6	538
どちらかといえば、当てはまる	54.9	52.1	500
どちらかといえば、当てはまらない	45.5	37.5	437
当てはまらない	38.1	28.4	414

小・中学校ともに、主体的に課題解決に取り組んでいる児童生徒ほど正答率が高い。

- ②「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問に回答した選択肢別の平均正答率。

小学校	国語 正答率(%)	算数 正答率(%)	理科 正答率(%)
当てはまる	70.9	62.4	61.4
どちらかといえば、当てはまる	66.1	57.7	56.4
どちらかといえば、当てはまらない	59.7	49.2	49.9
当てはまらない	57.4	50.3	50.8
学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	59.5	47.9	56.5
中学校	国語 正答率(%)	数学 正答率(%)	理科 平均 IRT スコア
当てはまる	58.5	54.7	512
どちらかといえば、当てはまる	54.1	52.0	501
どちらかといえば、当てはまらない	48.3	46.9	453
当てはまらない	33.9	23.9	388
学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	42.9	33.3	468

小・中学校ともに、対話的に課題解決に取り組んでいる児童生徒ほど正答率が高い。

①・②の結果から、主体的・対話的で深い学びを具現化することが、学力向上に密接につながっていることが分かる。小・中学校ともに、引き続き個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、主体的・対話的で深い学びを推進していくことが求められる。

具体的には、問題解決のために子供が自身に合った学び方で学ぶ授業展開や、振り返りの際に話し合いによって得た新たな気づき等を記述させる指導などが考えられる。

③以下の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。

小学校	本市(%)	県(%)	全国(%)
小学5年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	84.8	84.7	80.3
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	86.7	87.9	84.9
中学校	本市(%)	県(%)	全国(%)
中学2年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	82.3	83.0	77.7
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	86.0	88.0	84.7

小・中学校ともに、主体的・対話的に課題解決に取り組んでいると認識している児童生徒の割合が全国と比べて高い。一方、いずれも県と比べて低い。

③の結果から、小・中学校ともに主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善の積み重ねが成果として表れている。一方で、先進的な実践事例などの情報を積極的に収集し、引き続き授業形式や指導法の刷新を推進していくことが求められる。

④以下の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。

小学校	本市(%)	県(%)	全国(%)
将来の夢や目標を持っていますか。	83.6	84.7	83.1
学校に行くのは楽しいと思いますか。	86.2	88.4	86.5
中学校	本市(%)	県(%)	全国(%)
将来の夢や目標を持っていますか。	70.4	69.9	67.5
学校に行くのは楽しいと思いますか。	88.0	87.8	86.1

中学校は、2項目とも全国、県と比べて高い。一方、小学校は、将来の夢や目標を持っている児童の割合は全国を上回っているものの県を下回っている。また、学校に行くのが楽しいと思っている児童の割合が全国、県と比べて低い。

④の結果から、小学校において、将来の夢や目標を持てない、学校に行く楽しさを味わうことができない児童が一定数いることが課題であると言える。一律的な指導ばかりではなく、児童生徒の多様な個性や価値観などを尊重し、保護者や地域の協力を得ながらどの児童生徒にとっても居場所のある学校風土を醸成していくことが求められる。